

また、一緒になろうな

慌ただしい四月を過ごしました。気ぜわしい日々の私を癒してくれたのはテレビでした。

好きな番組がいろいろあります。NHKのサンドウィッチマンMC「病院ラジオ」という番組はお気に入りの番組です。不定期の放送で休日の午前中に放送されるので仕事があるとなかなか見ませんが、四月二十九日は仕事もなく見ることができました。

サンドウィッチマンの二人が病院に行き入院患者、通院患者さんに直接話を聞いたり、事前に配ったアンケート用紙に記入された文章を紹介し、最後にリクエストされた曲を放送するという形で番組が進行していきます。

四月二十九日は福岡市にある「九州がんセンター」が舞台でした。実際には多くの方の出演や

アンケートがあったのかも知れませんが、放送は数名の方の出演と三通ほどのアンケートの紹介でした。

その放送の中、心温まる話がありましたので紹介します。唐津市在住の「ユミ」さんは二〇二一年十一月仕事中に胃痛に襲われ近くの病院を受診しましたがすぐに大きな病院を紹介されました。その病院でも対応できないということで福岡市にある九州がんセンター病院を紹介されました。

そこで診察を受け病名は胃がん、後腹膜脂肪肉腫と伝えられ、すぐに入院。腫瘍は十五センチの大きさ、急に容態が悪化。医師から「手術は腫瘍が大きすぎるので小さくならないとできない、余命は年末を越せない」と伝えられました。「治療法がないのでご自宅で家族と過ごしませんか」と医師から言われ、ご主人は

可能性があれば手術をと医師へ伝え、ユミさんは「家に帰るけど治療をあきらめて帰るのではない」と医師とご主人に伝えられました。

ユミさんはご主人に「生まれ変わってもまた一緒になろうね」とかねてから言っておられました。ご主人はユミさんが元気なころは「いやだ、生まれ変わったら俺は草になる」と言っておられたそうです。その発言はユミさんがご自宅に帰られてからは「生まれ変わっても一緒になろう」と変わり、高校三年生の息子さん他子供たちはユミさんのベッドの横で一緒に眠られるようになったそうです。ユミさんはこの家族ともっと一緒に過ごしたいと思いつつ日々。その思いがんに勝ったのでしよう。腫瘍は小さくなり手術をして無事に回復されました。定期検診で通院の

際にたまたま「病院ラジオ」が開催されており、急きょ出演を決めました。

明るくお話しされながら、奇跡が起きましたと発言、別室で聞いていた男性医師お二人も「奇跡や」と口にされました。

最後にご主人のもとに帰られると、ご主人は「大好きだよ、生まれ変わっても一緒になろうな」とユミさんに伝えられました。

そんなお二人の様子を拝見しながらうらやましく思いました。しかし、ただ一つだけ「生まれ変わっても一緒になれるのかな」と思っていました。

迷いの世界を生まれ変わりに死に変わりしながら、お二人が同じ時期にそれも人としての命をいただくことかなうのかなと思ってしまう。

できるなら阿弥陀さまのご本願に出会い、お念仏のおはたらきをいただく、安楽浄土での再会を期していただきたいなと思つたことでした。

南無阿弥陀仏

法語の世界

《原 孝》

万事につけて、よきことを思ひつくるは御恩なり。悪しきことだに思ひ捨てるは御恩なり。捨つるも取るもいづれもいづれも御恩なりと云々。

(『蓮如上人御一代記聞書 二百九十六』)

《現代語訳》

「何(なに)ごとにおいても、善(よ)いことを思(おも)いつくのは仏(ぼん)のおかげであり、悪(わる)いことでも、それを捨(す)てることのできたのは仏(ぼん)のおかげである。悪(わる)いことを捨(す)てるのも、善(よ)いことを取るのも、すてみな仏(ぼん)のおかげであると仰(おほ)せになりました。」

初盆会について

今年初盆会をお迎えになるご家庭にあって、時間を決めてご親戚、知人の方々にご案内をし、お斎を準備される際は、早めに時間決定の相談をお願いします。

現在、今年初盆会を迎えられる物故者数は20人です。相談をいただいた順にお参りの時間を決めていきます。

時間を決められないご家庭もご連絡を下さい。

